

目次 CONTENTS

- 1-2 はじめに
- 3 防災／周辺地域を知っておく
- 4 防災／マニュアルの制作
- 5 防災／とくに全員で共有すること
- 6 防災／患者さんの避難
- 7 防災／避難場所
- 8 訓練／さまざまなパターンで
- 9 直後／指示系統の確立
- 10 直後／避難の受け入れ
- 11 転院／送り出し
- 12 転院／受け入れ
- 13 転院／圏域全体の協力
- 14 情報／収集ルートの確保
- 15 職員／安否確認、情報共有
- 16 職員／メンタルヘルス対策
- 17 職員／出勤支援
- 18 薬／薬局、他病院と連携を
- 19 カルテ／紙カルテ、電子カルテ
- 20 施設／耐震、安全性
- 21 備蓄／水・食料は多めに
- 22 備蓄／必ず必要になるもの
- 23 連携／地域、業者、他地域
- 24 連携／報道関係者
- 25 参考にしたい防災マニュアル
- 26 リンク集



精神科病院 防災と災害時の行動ヒント集

DISASTER PREVENTION AND BEHAVIOR AT THE TIME OF DISASTER FOR PSYCHIATRIC HOSPITAL



東日本大震災と熊本地震の
実例をヒントに。
どんな備えをしたか。
災害時にいかに行動し、

精神科病院 防災と災害時の行動 ヒント集

2019(平成31)年2月刊

公益社団法人 日本精神科病院協会

公益社団法人 熊本県精神科協会

東北大学 災害科学国際研究所 災害精神医学分野

〒980-8573 仙台市青葉区星陵町2-1

TEL 022-717-7897 FAX 022-273-6285 Web : www.irides-dpsy.med.tohoku.ac.jp

Case studies

FOR PSYCHIATRIC HOSPITAL

読んで
考える

はじめに

このパンフレットに記載してある情報は、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震を経験した精神科病院、計88病院（※）から調査した内容をもとにまとめたものです。

精神科病院が、被災前いかに災害に備えていたのか、どのように被災したのか、どのような支援を受け、どのように復旧・復興を経験したのか、具体的な情報を収集しました。それぞれの経験は個別のものですが、収集した情報には、全国の精神科病院と携わるスタッフが知っておくべき情報や教訓が、大いに含まれていました。このパンフレットでは、調査の内容をもとに、声が多かったこと、特に重要と考えることをイラストと文章で分かりやすく紹介しています。精神科病院として非常時にいかに行動し、どんな備えをすべきなのか。そのヒントを見つけて頂ければと思っています。

※平成25年から平成27年にかけて行った調査では岩手県、宮城県、福島県の43病院に、平成29年度に行った調査では熊本県の45病院に回答をいただきました。

2015年に日本精神科病院協会では、『精神科病院における災害対策マニュアル作成ガイド』を配布しています。合わせてお読みいただければと思います。

念頭に置いていただきたいこと

☑ 臨機応変な対応が必要

災害時は、刻々と必要な支援や必要な情報が移り変わっていきます。すべてが、このヒント集の通り進む



とは限りません。平常時の準備や想定は必要ですが、それを基本としながらも、臨機応変な対応が必要であることを意識することが大切であると思われます。

☑ 「実施できるか」を考慮する

また、このヒント集をもとに、マニュアルや行動規範をつくる際は、必要な内容を網羅するだけでなく、実際に災害に直面したときに「実施できるか」を考慮する必要



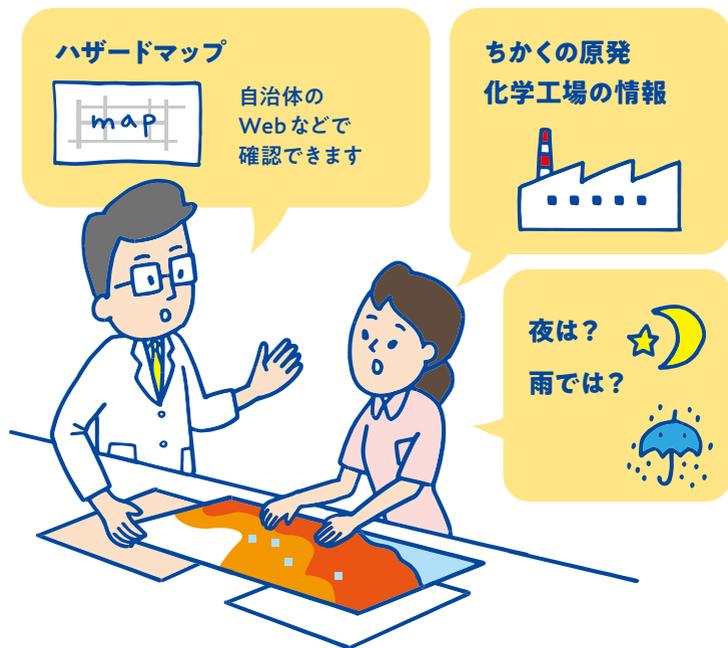
があります。マニュアルの作成や防災対策も、一度に全部やろうとしなくてもいいのではないかと考えます。それぞれの病院の現状に合ったかたちを模索しながら、少しずつ、体制を強化することが大切なのではないかと思えます。

THEME
防災

行動のヒント

周辺地域を知っておく

- ☑ 地震、津波、豪雨、がけ崩れなど、どんな災害に直面しても安全に避難できるように、**周辺の地形や気候状況を見直しておくことが大事です**。自治体が発行しているハザードマップを活用するのも手です。時間帯も、朝、昼、夜の場合を検討しておきましょう。
- ☑ また、原子力発電所や化学工場の場所を把握し、事故の際の**広域避難計画も確認**しましょう。(ただし、福島第一原子力発電所の事故では、国の枠組みで考えないと個別の病院では対処できない事案も発生しました。確実な情報収集と臨機応変な判断が求められます。)



THEME
防災

行動のヒント

マニュアルの制作

- ☑ 大切なのは、**職員の動きと役割分担を、明確に「見える化」**することです。このあと紹介する事例を参考にしながら、全員が共有できる形でマニュアルを作りましょう。
- ☑ 看護師や事務局、栄養士など、**それぞれの現場の意見を取り入れるのも重要**です。特定の人を作成すると、その人が不在時に機能しなくなるからです。ほかの病院や自治体のマニュアルのいいところを取り入れるのも有効です。
- ☑ 東日本大震災では、病院運営の継続が困難になる事例もありました。**事業継続に重点をおいた災害時の計画をたて**ましょう。

（ 災害時の動きと役割を明確に! ）



THEME
防災

行動のヒント

とくに全員で共有すること

- ☑ 何よりもまずは、**自分の命と安全を守る**ことが、最優先。
- ☑ どこに集まり、「何を」「どんな手段」「だれに」報告するのか、連絡先も含めて共有しておきましょう。



- ☑ 患者さんの避難場所や避難手段は、混乱することが多いことのひとつです。特に意識して訓練しておきましょう。
- ☑ 外からの支援をどのように受け取るかも、あらかじめ検討が必要です。
(どんな支援物資を受け取るか、支援物資の最初の置き場所はどこかなど)

（ポイント）

- 自分の命と安全が最優先!
- どこに集まるのか
- 何を、どんな手段で、誰に報告するのか
- 担当の患者さんはどこか、どこに、どうやって避難させるか
- 受け取る支援物資の種類
- 支援物資の最初の置き場所

THEME
防災

行動のヒント

患者さんの避難

- ☑ 避難に対する備えは、いざというとき慌てないために重要です。
- ☑ 特に、患者さんは、**それぞれの状態に合わせた避難計画を立てる**必要があります。自立歩行困難な人、特殊な機材が必要な人、精神的に不安定な人をどうするかを検討しましょう。
- ☑ 1人の患者に対し、1人が必要な場合、その**マンパワーをどう確保**するかなど、具体的な想定が必要です。
- ☑ 出勤している職員が少ない**夜間に発生した場合**の対策も決めておきましょう。

（患者さんの状態にあわせた避難計画を！）



THEME

防災

行動のヒント

避難場所

- ☑ 一次避難場所(最初に避難する場所)は、次の点に注意して選びましょう。
丈夫さ、広さ、障害物がないか、停電しても明るいか、換気はできるか、部屋の温度
- ☑ 一次避難場所として近隣施設と協定を結ぶことも、方法のひとつです。
- ☑ 避難場所が決まったら、非常時に点灯する足元灯を設置するのも有効です。



THEME

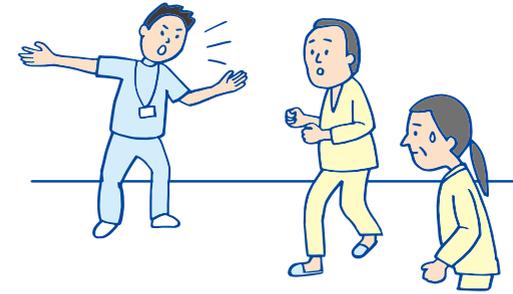
訓練

行動のヒント

さまざまなパターンで

- ☑ 避難訓練は、「身体が覚えるレベル」まで繰り返し実施することを目標にしましょう。
- ☑ 基本はスタッフ全体で実施することが前提ですが、災害が夜間や休日にかかることも想定し、勤務スタッフが少ないパターンの訓練を行うことも有効です。

身体が覚える
レベルまで
訓練する!



- ☑ 炊き出し訓練や非常電源を稼働させる訓練は、備品の故障や燃料切れなどの点検になったり、使い勝手を確認したりすることにもつながります。
- ☑ トリアージや重症患者の避難誘導の訓練も必要です。災害対策本部に情報を集約する訓練も大切でしょう。

使い方は
どうだっけ?
故障?

非常用



確認しておくんだっ!



患者さんを
想定した訓練も

THEME

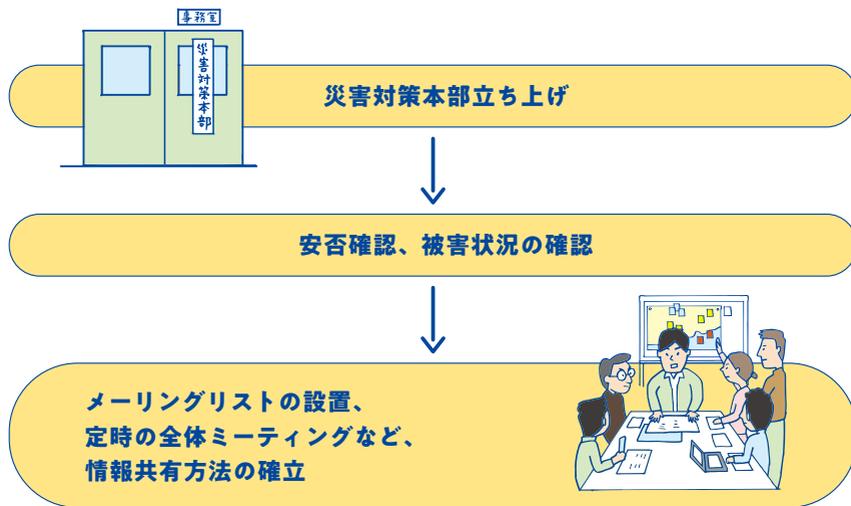
直後

行動のヒント

指示系統の確立

- ☑ 震災直後は、恐怖や驚きでパニックになりがちなもの。自分とスタッフ、患者さんの身の安全を確保したあとは、なるべく早く混乱状態を収束させるため、指示系統の確立と情報共有のシステムを確立させましょう。
- ☑ まずは、災害対策本部を立ち上げます。同時に、職員と患者さんの安否確認、被害状況の確認などの情報を収集し、しかるべきスタッフに共有します。情報共有の方法としては、しばらくの間定時の全体ミーティングを設けることも有効でしょう。

（ 混乱を収束させるために、システムの確立を！ ）



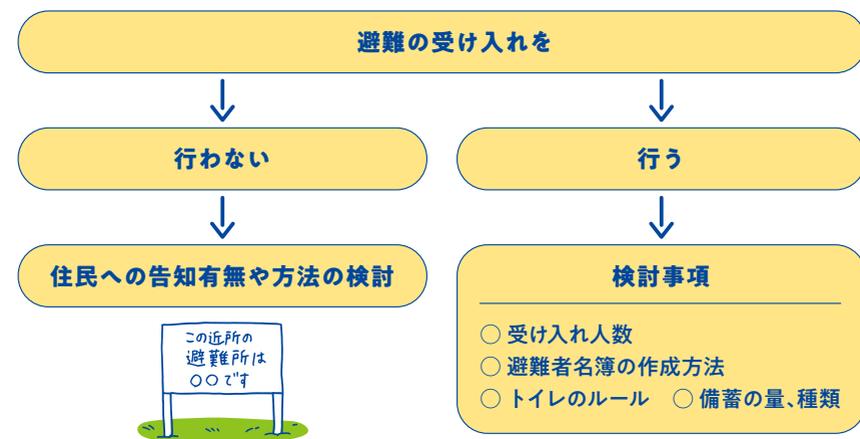
THEME

直後

行動のヒント

避難の受け入れ

- ☑ 病院が指定避難場所になっていない場合も、近隣住民などが避難先を求めて来院する場合があります。あらかじめ、受け入れるの可否、受け入れる場合、場所や受け入れ人数、避難者名簿の作成はどうかなどを決めておくことが大切です。
- ☑ 避難所にする場合は、あらかじめ届け出をしておくことが有効でしょう。避難所運営のノウハウが入手しやすい、物資が届きやすいなどの利点があります。
- ☑ ヒアリングでは「トイレの利用ルールを決めておいた方がいい」というコメントも多くありました。使っていいトイレを指定する、清掃は利用者に分担してもらう、汚損への対応をどうするかなどを想定しておく、円滑になるかもしれません。
- ☑ 受け入れ人数分の水や物資、敷物、間仕切りなどの備蓄検討も必要です。



THEME
転院

行動のヒント

送り出し

- ☑ 転院(送り出し、受け入れ)の手順は、特に混乱しがちな傾向にあります。**事前にしっかりマニュアルをつくり、確認しながら訓練しておくことが大事です。**
- ☑ 送り出しに伴う**スタッフの確保、勤務体制と配置**を決めておきましょう。食料や暑さ、寒さに備えた準備も必要です。
- ☑ 「**診察情報**」、「**緊急情報カード**」、「**薬剤**」、「**お薬手帖**」、「**持ち出し衣類**」をどうやってまとめるかなど、送り出す準備内容についても決めておきましょう。
- ☑ 大人数が移動できる**搬送手段(バス、ワゴン車)**などの確保も検討しましょう。

（送り出しは事前準備がとっても大事！）

持ち出す物の例

- 診察情報
- 緊急情報カード
- 薬剤
- お薬手帖
- 持ち出し衣類



東日本大震災のときは、送り出す側が診察情報を十分に用意できず、混乱した例もありました。

THEME
転院

行動のヒント

受け入れ

- ☑ いつ受け入れる側になっても大丈夫のように、できる限り準備しておきましょう。
- ☑ 他院からの受け入れはもちろん、**通院患者が悪化し、再入院した場合の余力を残しておくことが大切。**災害に備え、定床数以上のベッドが確保できる準備があるといいかもしれません。
- ☑ 備蓄も、受け入れを想定した量を検討しましょう。リネン、寝具などは、多めに用意、または納入業者と提携しておくことも必要です。
- ☑ 東日本大震災や熊本地震では、**受け入れ側のスタッフの心労も課題**になりました。勤務体制の検討や健康への配慮も必要です。



平常時に提携を結んでおきましょう

受け入れ側が疲弊しないように、勤務体制などの準備を

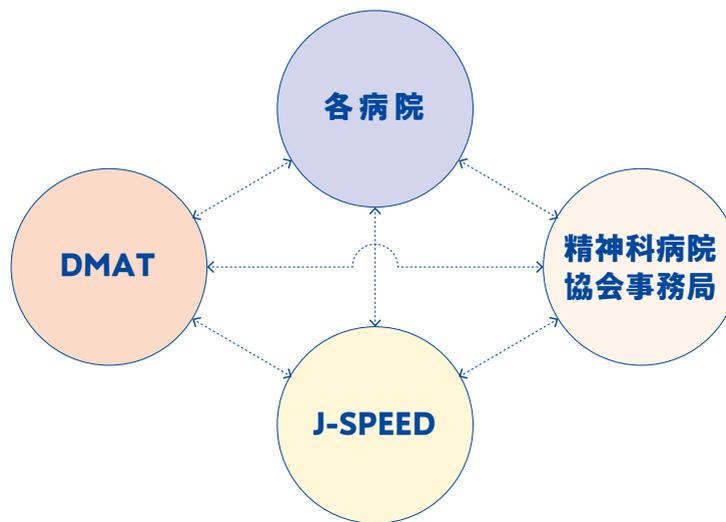
THEME
防災

行動のヒント

圏域全体の協力

- ✓ 地域の病院全体と行政が、一緒に災害対応訓練を行い、連携を深めることが急務です。
- ✓ 転院は情報が命です。各病院、精神科病院協会事務局、DMAT、J-SPEEDの情報伝達のシステムを構築し、各病院の空床状況や医師の稼働状況を被災現場から取得できる体制をつくり、地域の精神科病院全体に浸透させておくことが必要だと考えます。
- ✓ また、やむを得ない状況で入院が長期化した場合、急性期病院や救急病棟の算定日数について、施設基準例外措置による算定緩和を行うなど、方針を事前に検討しておく必要があります。

各病院、精神科病院協会事務局、DMAT、J-SPEED が互いに連携



THEME
情報

行動のヒント

情報収集ルート確保

- ✓ 広域災害救急医療システム(EMIS)への登録は、震災時に円滑に支援を受けられるためにも重要です。未登録であれば、ぜひご検討ください。
- ✓ 一般回線以外の通信手段を確保しましょう。携帯電話で聞けるラジオ、モバイルWi-Fi、メールなどさまざまなツールを使い慣れておきましょう。トランシーバーを複数台準備しておくともよいでしょう。
- ✓ 災害時はSNSにさまざまな情報が流れます。実際、必要な支援物資を発信するなど、役にたつ場合が見受けられました。反面、デマや間違った情報が含まれることがあるので注意しましょう。
- ✓ 外部の関係者、精神科病院協会、行政などの人から確実な情報を得ることができるように、常日頃顔を見える関係をつくっておくことも大切です。



携帯電話で聞ける
ラジオ



SNS



メール



ポータブルテレビ



モバイルWi-Fi

ラジオは建物内だと電波が入りにくい、外だとヘリの音で聞こえない、などの報告も。イヤホンも準備しておきましょう



THEME
職員

行動のヒント

安否確認、情報共有

- ☑ スタッフの安否確認、情報交換のシステムは、**あらかじめ準備して共有**しておきましょう。
- ☑ 一斉電子メール配信システム、伝言ダイヤル、電話転送、SNS、インスタントメッセージなどの手法があります。
- ☑ **管理職側から連絡するだけでなく、スタッフ側から連絡できる体制**を。要請がなくても、自主的にスタッフが安否情報を送れるスキームがあると便利です。
- ☑ **緊急時の職員連絡先**を把握しておきましょう。

（ポイント）

- ☐ **メーリングリスト（一斉電子メール配信システム）**
きまったひとつのメールに送信するだけで、登録した全員にメールが届きます。返事もできます。
- ☐ **伝言ダイヤル**
災害用伝言ダイヤル171に電話し、NTTに伝言を預ける方法です。
- ☐ **電話転送**
一般回線が使えない場合、携帯電話などに電話を転送できます。
- ☐ **SNS、インスタントメッセージなど**
チャットできるスマートフォンアプリ。簡単に返信できますが、セキュリティに不安があります。

THEME
職員

行動のヒント

メンタルヘルス対策

- ☑ 災害時、病院関係者は、使命感や責任感から、弱音を吐きにくい心理状態になっています。
- ☑ 「**自分もスタッフも頑張りすぎる状況にある**」ということを意識して、頻繁に声をかけ合い、休憩がとれる体制を組んでおきましょう。



- ☑ 各部署の代表が定時に状況を聞き取る、**精神科医によるスタッフの面談**を行うなども有効です。
- ☑ あらかじめ、**メンタルヘルスの勉強会や知識普及**をしておくことも有益です。

安心して相談できる
場所の確保を



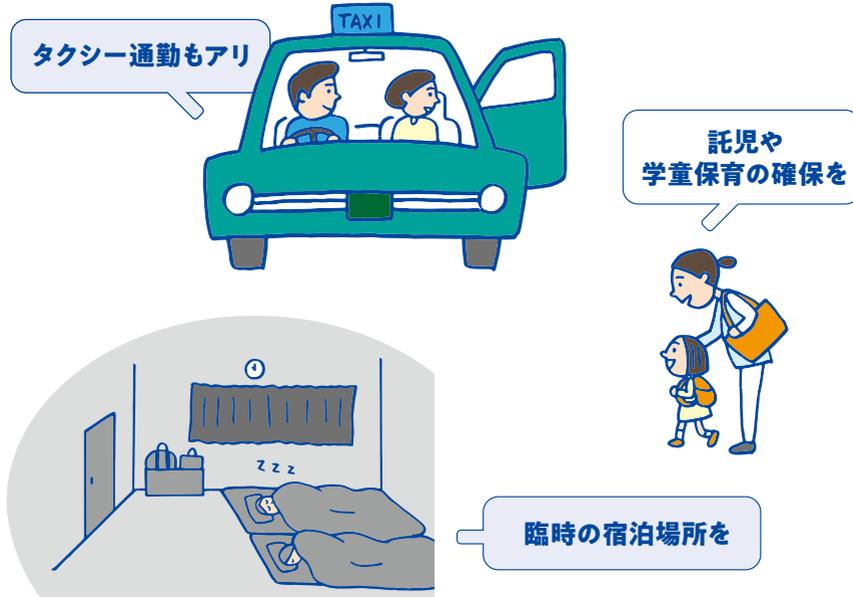
THEME
職員

行動のヒント

出勤支援

- ☑ バスや電車が不通になり、スタッフが出勤できない状況になることもあります。**タクシーによる集団通勤**も視野に入れて事前に検討しましょう。
- ☑ **宿泊に対応できるように**、宿泊場所やベッド、リネンなどを準備するのよいでしょう。
- ☑ 近隣幼稚園や保育園と取り決めを行い、**託児や学童保育の確保**も大切です。

（ スタッフが出勤できる手助けを ）



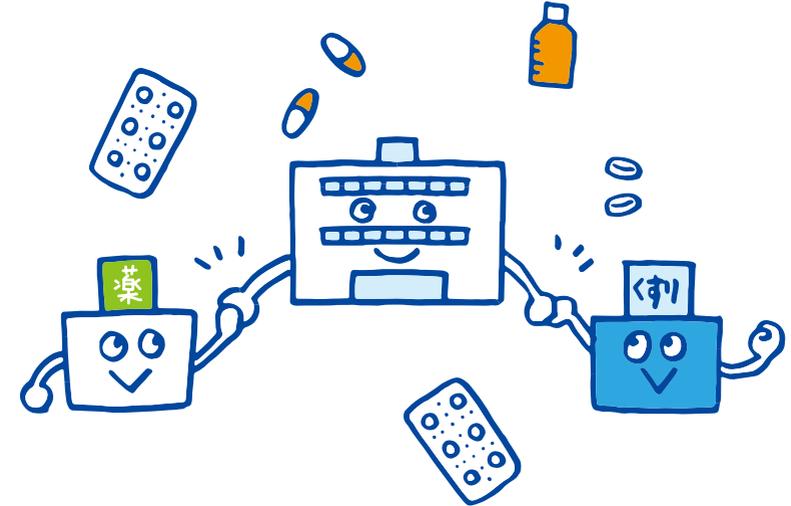
THEME
薬

行動のヒント

薬局、他病院と連携を

- ☑ 道路の不通などで流通が滞ると、**薬剤の不足**が起こります。少ない薬剤を互いに調整しながら有効に使えるように、**近隣の調剤薬局に臨時営業の協力を要請**しておくことが不可欠です。
- ☑ 特に精神科病院では、**流通量が少ない薬を扱う場合があるため**、特に意識して薬剤を調達する必要があります。
- ☑ 実際に、東日本大震災で津波の被害を受けた離島やへき地では、数週間にわたって十分な薬が入手できず、やりくりしながら調剤した例がありました。病院間、調剤薬局との間に、**薬を共有・在庫確認ができ、処方歴情報を把握できるシステムを構築**することが不可欠です。

（ おたがいにやりくりできるシステムを ）



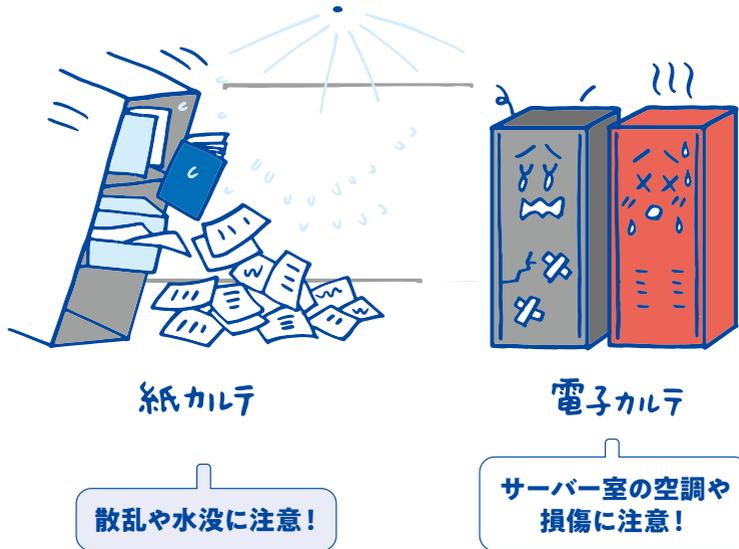
THEME

カルテ

行動のヒント

紙カルテ、電子カルテ

- ☑ 大切なカルテは、失われないように、また非常時も問題なく使えるように、準備が必要です。
- ☑ 紙カルテ・・・棚からの落下や散乱が問題になります。揺れに対する対策が大事です。また、スプリンクラーの誤作動が起こる例もあるので、水没対策をしておきましょう。
- ☑ 電子カルテ・・・電源の喪失、サーバー室に入れない、空調が止まったことによるサーバダウン、サーバ損傷によるデータ喪失が報告されています。バックアップ側で出力できる体制をとるなど、対策を講じるほか、万が一使えなくなった場合に備えて、患者の食事内容や重要情報が把握できる体制の構築も必要です。



THEME

施設

行動のヒント

耐震、安全性

- ☑ 避難場所、避難経路に転倒する家具がないか、開かなくなりそうなドアはないか、鍵の保管場所にたどり着けなくなる可能性はないか、鍵の管理や共有は的確な状況かなどを再度確認しましょう。
- ☑ 施設の設計自体を見直す機会がある場合には、階段の数や広さ、スロープの設置を検討しましょう。ライフラインを複数持つなどの検討も必要です（ガスと電気両方を確保するなど）。
- ☑ 管理者が施設全体の構造を把握しておくことが望ましいとともに、災害発生後、建物や設備の安全性を確認してもらえる建築士などとコネクションがあると良いでしょう。行政の対応は困難であると思われるため、自力で安全確認を行えるよう備えておくともいかもしれません。

建物の損傷や安全確認を 専門家と一緒にいきましょう



THEME
備蓄

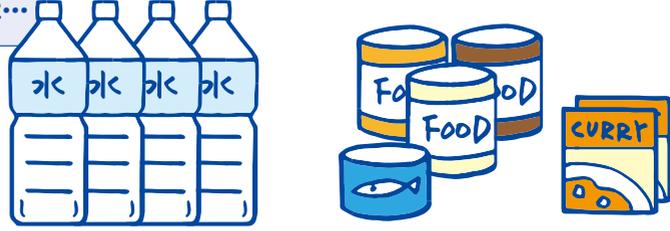
行動のヒント

水・食料は多めに

- ☑ 命に関わる水と食料は十分な量を用意しましょう。入院患者だけでなく、スタッフ、スタッフの家族、業務委託スタッフ、受け入れ患者などを含めた人数分の確保が目標です。

《 水と食料は多めに備蓄! 》

特に水は…



- ☑ 飲料水のみならず、生活用水の確保も重要です。周辺地域の井戸の場所や水質を確認しておくともよいかもしれません。井戸であれば、ポンプや非常用電源、受水槽の準備・保全も重要です。



- ☑ スタッフや外部からの求めも想定して、提供のルールを決めておくともよいでしょう。

THEME
備蓄

行動のヒント

必ず必要になるもの

- ☑ 水、食料以外に必要なものは、『精神科病院における災害対策マニュアル作成ガイド』などを参考に準備しましょう。
- ☑ ヘルメットと避難セットを入れた非常持ち出し用のリュック、水を運ぶポリタンク、衛生用品、簡易トイレ、仮設トイレ、懐中電灯、乾電池、携帯調理器具、ブルーシートなどが主に上げられます。

《 必ず必要になるものリスト 》

- | | | |
|--|--------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ヘルメットと避難セット入りリュック | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ | <input type="checkbox"/> 乾電池 |
| <input type="checkbox"/> ポリタンク | <input type="checkbox"/> 仮設トイレ | <input type="checkbox"/> 携帯調理器具 |
| <input type="checkbox"/> 衛生用品 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ブルーシート |

- ☑ 被災地では、ガソリンの不足が問題になります。病院のクルマは常に満タンにしておく習慣をつけましょう。

ガソリンは常に満タンに!



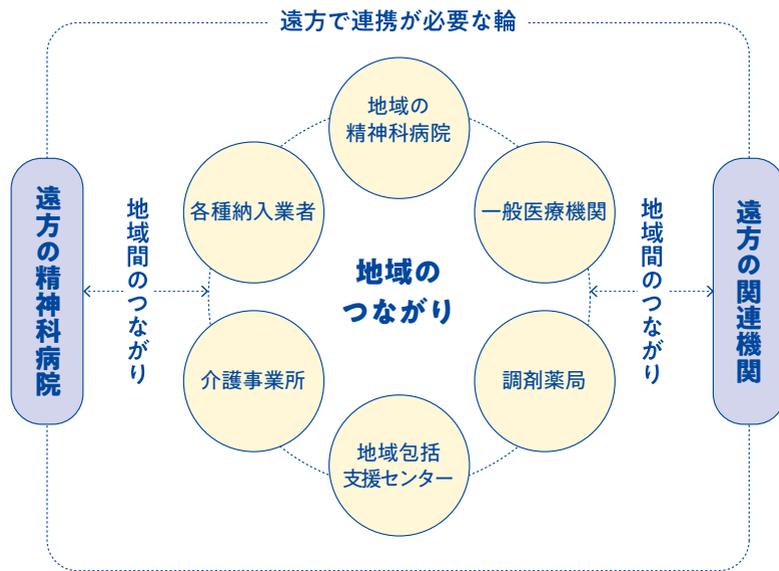
THEME

連携

行動のヒント

地域および地域間のつながり

- ☑ 震災後は医療への影響が多岐に渡り、または長期に及びうることを想定して、支援要請できる関係づくりをしておきましょう。災害は広域で起こることも多いため、遠くの病院や機関とも連携や契約を行っておくことが大切です。
- ☑ 協力体制を構築しておくといのは、地域の精神科病院、遠方の精神科病院、一般医療機関、調剤薬局、地域包括支援センター、介護事業所、各種納入業者など多岐に渡ります。
- ☑ 日ごろから助け合う関係の構築が大切です。ほかエリアで災害があった場合に備え、車両や人手などの派遣準備をすることは、本邦の精神医療全体の防災力を向上させることにもつながります。



THEME

連携

行動のヒント

報道関係者

- ☑ 報道は、社会へ被災地の状況を発信する手段として有効ですが、意図しないかたちで巻き込まれる危険性もあります。
- ☑ 災害があったら、さまざまな報道関係者から取材要請があるということを前提に、取材を受けることに関わる、病院としての姿勢や対応を検討しておきましょう。
- ☑ 被災地における取材活動は、災害の度に課題に上がることです。地域の報道機関、関係機関と日ごろから交流し、共通認識を持つておくことも大切です。

（ 事前にシミュレーションしておきましょう ）



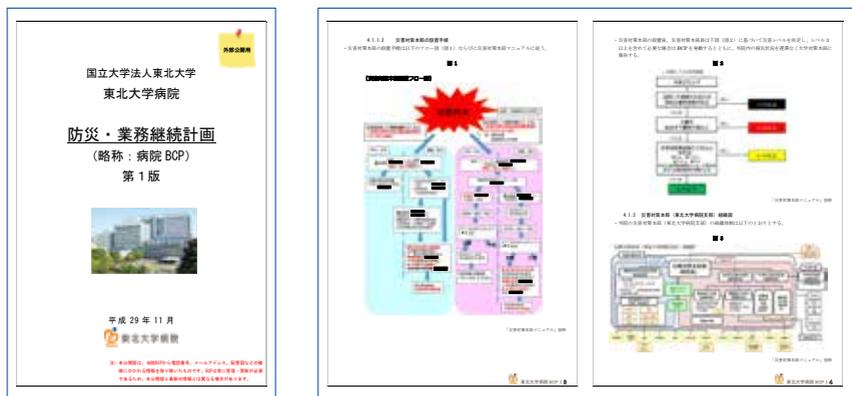
参考にしたい防災マニュアル

精神科病院における災害対策マニュアル作成ガイド



ここに入っている文章はダミーです。80文字想定です支援要請できる関係づくりをしておきましょう。この文章はダミーです。遠くの病院や機関とも連携や契約を行っておく。

国立大学法人東北大学 東北大学病院 防災・業務継続計画 (BCP)



ここに入っている文章はダミーです。80文字想定です支援要請できる関係づくりをしておきましょう。この文章はダミーです。遠くの病院や機関とも連携や契約を行っておく。

リンク集

公益社団法人 日本精神科病院協会

<https://www.nisseikyo.or.jp/>

公益社団法人 熊本県精神科協会

<https://www.kumaseikyo.or.jp/>

東北大学 災害科学国際研究所 災害精神医学分野

<http://www.irides-dpsy.med.tohoku.ac.jp/>

東北大学 災害科学国際研究所 災害と健康プロジェクトユニット

<http://www.irides-pudh.med.tohoku.ac.jp/>

東北大学病院 災害対策マニュアル、事業継続計画 (病院 BCP)

<https://www.hosp.tohoku.ac.jp/outline/017.html>

DPAT 事務局

<https://www.dpat.jp/news.php?id=180>

広域災害救急医療情報システム

<https://www.wds.emis.go.jp/>

J-SPEED 情報提供サイト

<https://www.j-speed.org/>

国立精神・神経医療研究センター ストレス・災害時こころの情報支援センター

<https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/>